

5日で5000枚の約束。

災害時に、全国の畳店から避難所に新しい畳を無料で届けるプロジェクト。

⊕被災地の畳店が、全国の仲間から避難所に敷く畳を受け取るプロジェクト。

tataminoyakusoku.net

5000枚の約束



vol.009

[Topic] 02-03. ACTION | 協定の締結やイベント参加 04-05. 復興の現在地 | 被災した各地域の現在 06. OUR PROJECT | 現在の体制及び平時・災害時の動き 07. CHRONICLE | プロジェクト発足～現在までの歩み 08-11. これまでの活動 12-13. FOCUS | 特別対談 vol.08



盛岡と

3.11

絵本プロジェクト。

被災地の子どもたちへ絵本を届けるプロジェクト「3.11絵本プロジェクトいわて」でボランティアスタッフとして被災地に絵本を届けてきた小綿さん(写真右側)との対談を12-13ページで。

Time Lapse



【関東・東北豪雨】(2015年9月)

関東地方北部から東北地方南部を中心として24時間雨量が300ミリ以上の豪雨に、それに伴い河川氾濫の危険性が顕著するなど大規模な被害をもたらした。

気象の勉強から プールでカヌーに乗る練習まで。 (つくばみらい市)

災害後、地元の子供育成会が主体となって、体育館で復旧する防災訓練をしていましたが、コロナもあって参加者ができなくなり、最近では防災倉庫の確保をしたり、茨城県の気象台の方に来てもらって雨の降り方や雲の動きなども勉強したりしています。

このあたりは土地が広いので、昔は農家の人が畑には舟が着るしてあったので、プールでカヌーに乗る練習をしています。

吉谷真 よしや書店 (茨城県・つくばみらい市)

West Japan
rain disaster

【西日本豪雨災害】(2018年7月)

台風7号および梅雨前線等による集中豪雨で、西日本を中心に広域的かつ同時多発的に河川の氾濫、かけ崩れ等が発生。死者223名、家屋の全半壊等20,663棟、家屋浸水29,766棟など甚大な被害が広範囲で発生。

目に見えない心の復興を 今も支え続ける団体があります。 (倉敷市真備町)

5年が経ち、河川の切り替え工事も順調に進み、令和3年度末に完成予定です。ただ真備町を中心に人口は災害後にぐんと減り、その後戻ってきてはいますがまだまだ災害前ほどにはなっていません。ほぼ全ての家屋が全壊した真備町(川辺地区)では災害当時、地域に避難所や安置施設がなかったことから、住民が中心となって立ち上げた「川辺復興プロジェクトあるく」という団体があります。避難所生活やつながりづくりなど活動を続けています。代表の横原さん、いつまで活動を続けるべきなのかは考えることもありますが、でも命は助かって当時の辛さや悔しさを抱えて苦しんでいる方はまだまだいらっしゃる。心の復興と

もに活動していく団体だと思っています。この団体が存在すること自体が、この地域で暮らしていく心の安心につながっていると言っていたことも。だから継続することが大事なんじゃないかとも思うんです。そして命だけでなく『心を守る避難』をできるだけ多くの方に広めるのも私たちの役割だと思っています」とぶつぶつしゃべっていました。心の復興はなかなか目に見えない。だからこそ地域によって大事な活動だと思っています。

石原正明 石原書店(有) (岡山県・倉敷市)

復興の 現在地

日本各地で起こる災害。当プロジェクトでは地元の書店メンバーと連携しながら必要に応じて避難所などに畳を届けてきま

した。当時から月日が経った今、現地ではどのような様子なのか、各地の被災地の「今」を地元メンバーが報告します。

【熊本地震】(2016年4月)

熊本県と大分県で震度7の揺れが28時間以内に2度発生しその後も余震が続いた。18万人を超える人々が避難し、交通網も道路・鉄道・空路が一掃不況になるなど、大きな被害が発生した。

南阿蘇鉄道の全線開通に 地域は大喜びしています。(阿蘇郡)

当時、工事は順調に、命をかけてもう一度がんばらんとあがんと誓ったのを覚えています。今はずいぶん復興してきましたが、大きいのは被災して一部区間しか走ってなかった南阿蘇鉄道が、今年2023年の7月に7年ぶりに全線開通したこと。あれだけ被害を受けたのに復旧したことはすごいことだとメディアでも取り上げられていましたが、やはり地域の人がすごく喜んで、地域にとって、すごい節目だったんだなと改めて感じました。

高橋 第一郎 大たみ工務福島 (熊本県・上益城郡)

震災ミュージアムが完成。(熊本市)

たまにお客さんのところに行くとき「震災で壁にひびが入って」と震災の地になりますが、自然にはずいぶん復興したように感じます。7年経って今年(2023年)7月に震災ミュージアムが完成。今も復旧工事が続く、熊本市が完成したら熊本の人にとっては一つの区切りになるのではないのでしょうか。

倉倉 保広 倉崎書店(株) (熊本県・熊本市)

震災後さらにコロナ、水害と。 (宇城市・人吉市)

震災後、災害に強いまちづくりを、と決めたのが2016年。復興と避難所の役割を持つ防災拠点センターができました。ただ、2020年に人吉で豪雨災害があり私たちの地域ではその年の方も被害が大きく、それで被災の記憶はあまりなくなってしまうように感じます。水害で大きなダメージを受けたくまもと県でも3年経ってようやく動き出したところ。全線開通にはあと2年はかかるそうです。

早水 聖彦 早水九三 (熊本県・宇城市)

【東日本大震災】(2011年3月)

三陸沖を震源としてマグニチュード9.0の巨大地震とそれに伴う大規模な津波が発生。死者19,747人、行方不明者2,556人、住家被害は1,154,093棟と未曾有の甚大な被害がもたらされた。

震災を知らない子どもたちに、 震災のことを伝える活動はこれから。(岩手県)

震災後は人がたくさん来て今は息が少し楽になりました。今はそういう人たちがいなくなってアパートも空室だらけ。町に活気がなくなった感じがします。ハード面は2年前くらいに復興が完了した感じですが、岩手から宮城にかけて避難もたくさんできて、場所より高い津波が来たら・・・と思うことももちろんありますが、少しは安心です。周りの人も自分自身も震災の事はあえてしない気がします。ただあれから月日が経つにつれて震災を経験していない子どもたちが増えてきま

した。あえてしない震災の話をきちんと伝えていかなくちゃならないと思っています。

山口 正樹 大森書店(有) (岩手県・宮古市)

【東日本・台風19号】(2019年10月)

台風19号の影響で静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨に、広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、浸水害、土砂災害等やライフラインの被害も発生。40年ぶりに死者100人を超える台風となった。

被災者の子どもを預かるボランティアが きっかけでオープンした託児所。(長野市)

台風19号で千曲川の氾濫が決壊。多くの住民が避難生活をしながら離れた家の片付けを続ける日々でした。家の片付けをするの子どもは数人。かといって子どもがいると家の中で避難する大人が厄手となり、片付けがなかなか進まない状況が生まれていました。そんな中、被災した家庭の子どもを預かるボランティア活動もありました。

長野市にはその活動をきっかけにオープンした託児所があります。立ち上げたのはボランティアに参加していた利根真智子さん。活動を続ける中で「毎年活動や週末も開催なく賑やかな場所が大事だと感じた」と託児所の開所を決め、2021年に365日対応の託児所「注文の多い託児所」が、

けんぱっ」をオープン。「どんな人でも、それがたとえ一人でも、子どもを預けたいと思う人がいれば預かる場所を作りたかった」と。当初は予約でも預かるそう。「子どもを預けたらタイムリリーフや困っている情報はそれぞれ、でも保護者が『子どもがいるから』って諦めるのではなく、やりたくないことをできるお母さんがいいんです。そして災害が多発したときに『今の自分には何ができたろう』ということを実に考えています」と利根さん。預ける先がある安心を届けられていると思います。

左右田 真 (株) インフォクティブ (長野県・長野市)

Typhoon
Hagibis

Great East
Japan
Earthquake

【東日本・台風 19 号】(2019 年 10 月)

台風 19 号の影響で静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨に。広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、浸水害、土砂災害等やライフラインの被害も発生。40 年ぶりに死者 100 人を超える台風となった。

被災者の子どもを預かるボランティアが きっかけでオープンした託児所。(長野市)

台風 19 号で千曲川の堤防が決壊。多くの住民が避難生活をしながら壊れた家の片付けを続ける日々でした。家の片付けをするのに子どもは危険。かといって子どもがいると家族の中で面倒を見る大人が必要となり、片付けがなかなか進まない状況が生まれていました。そんな中、被災した家庭の子どもを預かるボランティア活動もありました。

長野市にはその活動をきっかけにオープンした託児所があります。立ち上げたのはボランティアに参加していた利根真理子さん。活動を続ける中で「年末年始や週末も関係なく預かる場所が大事だと痛感した」と託児所の開所を決心し、2021 年に 365 日対応の託児所「注文の多い託児所けん

けんぱっ」をオープン。「どんな人でも、それがたとえ一人でも、子どもを預けたいと思う人がいれば預かる場所を作りたかった」と、当日急な予約でも預かるそう。「子どもを預けたいタイミングや困っている事情は人それぞれ。でも保護者が『子どもがいるから』って諦めるのではなく、やりたいことをできるお手伝いがしたいんです。そして災害がまた起こったときに『今の自分には何ができるだろう』ということを常に考えています」と利根さん。預ける先がある安心を届けてくれていると思います。

左右田光 (株) インテック左右田 (長野県・長野市)